

インターバンクの声（2015年6月26日）

アジア市場からロンドン市場の朝方にかけて、ドル円はややスピードを付けたドル売り展開を見せ、重要なサポートポイントだった123円45銭をも割り込んで、先週後半から週初にかけての122円台に逆戻りするような勢いすら感じられた。この時間帯、ユーロ・ドルとユーロ円もドル円とほとんど同じような下げ方を見せており、実体はドル円の売りというよりもユーロ絡みの投機的な仕掛け、或いは大きい額の実需売りが出ていた可能性もある。しばらく前からインターバンク市場では個々の金融機関での取引の動きや背景など、具体的ではない透明性の薄い情報すら管理が厳格化されて来ている。金融機関、資本筋、機関投資家、海外のファンド、個人投資家の動きに至るまで、友人、知人だからといってぼんやりとした情報のやりとりさえ御法度となっている。そもそも外国為替取引には何から何まで厳しい規制があった訳ではなく、むしろ紳士協定的なお互いを尊重しながら最低限ルールを守ってきた文化がある。しかし、市場参加者がこれだけ多岐にわたり、市場規模も大きくなってくれば、そうしたルールを守らない人も出てくるわけで、こうした厳格なルール作りが必要になってくるのも仕方がないのかも知れない。以前なら多少輪郭が見えたかも知れない昨晚のドル円、ユーロ絡みの下落も結局何があったのか全く分からないままだ。不正に知り得た情報で取引を有利に進めるような事が防止されるのは結構だが、市場の動きがかなり見え難くなってきたのは少し寂しい気がする。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。